
子分の期待

ペロコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

子分の期待

【著者名】

N1675D

【作者名】

ペロロ

【あらすじ】

うちの処女作「子分の行方」の続きです。読んで、流れというか内容を知つておいたほうがいいと思います。というか、読まないと分からないです。ですが、はつきり言って書き方がめちゃくちゃです。そこは突っ込まないで下さい 平次×和葉（未満？）です。和葉ちゃん一人称に初挑戦しました ちなみに、うちの作家2周年記念だつたりもします。（だから何？） ではでは、楽しんでいただけたら嬉しいです（*^-^*）

(前書き)

あらすじを「ご覧になつていなかもしけない方のために、もう一度。
読まれた方はスルーしてください。

これは「子分の行方」の続きです。
読まなければ話は分かりませんので。

お読みになりました？　では、どうぞ…！

ボーッと歩く平次の左後ろをアタシはついていく。

最近、平次の様子がおかしい。というか、変や。

いつからかつて言うと、大体3週間くらい前から。

せや、東京にマジックショー見に行つて事件に会つた後ぐらいから。

どう變かつて聞かれたら、上手く言えへんねんけど……ボーッとしてることが多くなつた。

事件のこと考へてるわけでもないみたいやねん。キラキラした目してへんし。

やからアタシは『平次がおかしい』と判断した。

何せ、いつもいつもやたらとデカイ声で話す平次が、授業中窓の外見て、黄畠てんねんで？ これは異常や。危険や。ヤリでも降るんちやうかつて思う。もちろんこれは、一大事や。

『あの服部平次が黄畠てる』ということは、あつといふ間に知れ渡

つて、何でか理由をアタシに聞いてくる。

「知らんよ」

つて答えるも答えても、聞いてくる人は途絶えへんかった。せやから、

「分かった！ 今日の帰りに平次に直接聞いてくるわーー！」

つて宣言してしもた。

それで今に至つてゐわけなんやけど、どうせ話しかけられへん雰囲気が漂つてるつていうか、上の空の返事しかせえへんのちやうかつていつ思いとかがあつて、何も聞けてへん。

このペースで行つたらあと10分ぐらこで家に着いてまつと思つた時、突然平次が口を開いた。

「子分……」
「は？ 何、平次？」
「え、和葉！？ おつたんか」
「お、おつたんかつて……。まあ、Hエ。ホンマに何も見えてへんかつたつていうのは、よう分かつたし。で、何ん？ 『子分』つて

「前に東京行つた時、和葉ん」と子分やて書つたやう?」

「…………うん」

かなりムカついたけどな。

「それで、工藤に言つたことか、確か言つたよな？」

「うそ」

工藤くんは、さすがやて思たし。

「あれから、ずっと考えてたんや」

色々な意味で聞くのが怖かつたけど、聞きたかった。

「……何を？」

「何でオレは、あん時子分やて思たかや」

「へ？」

「せやからな、和葉のこと子分やと思た理由や。やたらとくらくら
しとむ和葉にイライラしてんけど、それが、ホンマに子分やからな
んかって思て」

「……」

何か、凄い方向に話がいつてもつてる？

「オヤジが子分を持つてる感じと同じやと細てたんやねだり、ちよつ
と違うような気にしてきてな？ そうなつたら、何であん時子分や
て思たんかが分からなくなつてきて。なあ、何でやと細つへ？」

そんなこと、アタシに聞くな――――――――――

つて、叫んでやりたい、この鈍感男に。
大体、平次の考えなんかがアタシに分かるわけないやんか、このド
アホ！

心の中は乱れに乱れ、台風とハリケーンが一緒に来たみたいや。

黙りこんだアタシに、さらに鈍感キング・平次は追い討ちをかけた。
「もし、子分やないんやつたら、オレにひとつの和菓つて何や？」
頭のビリかでブチッて音がしたよつの氣いがした。

「そんなん、自分で考えーやー。アタシに聞かんといで！　また上
藤くんにアドバイスもるたらヒヒやんかー！」

そう言い捨てて、田の前まで来ていた家の中に飛び込んだ。

部屋に入つて冷静に考えたけど、それだけアタシを意識してくれてるってことやろか？

よ、喜んでエエんかなあ……。

はあ、何でアタシがあのアホのことでこんなにも恼まなアカンのよ。もう止めや。止め。

これ以上考えても、平次のことなんか分からん。期待するだけムダや。

そつ結論づけて、今日はもう考えへんことにした。

でも、次の日。また恼まなアカンかつてん。それも、やつぱり平次のことで。

学校に行つたアタシに詰め寄つてくるみんなの質問である「何で平次が黄昏ていたか」には「分からんかった」って答えといた。
やつて『アタシが子分じやないなら何か』を考えてたなんて言いたいやん！

この日、平次が剣道の朝練があるから別々に学校に来たせいで知ら

んかつたんや。

怒り狂っていたつちゅういに……。

教室に入ってきた平次は、昨日と打って変わって、元気やった。

……よく言えば、な。

悪く言えば、肩を怒りじてドスドス歩いてた。

みんなからの『聞けよ』オーラをひしひしと感じつつ、勇氣を振りしぶって平次に話しかけたんや。

「平次、どうかしたん?」
「和葉……」

つて、アタシの顔をじっと見てたと思つたら、手を取りていきなり走り出した。

「ちよつ、平次!? ディ! 行くんよー!」
「屋上やー!」

そつ答えて、アタシの手を引っ張つて走る。

階段を駆け上り、誰もおらへん朝の屋上に着いたときは、ハアハア息してた。

「へ、平次、どないしたんよ、いきなり……」

「……したんや」

「へ？」

「昨日、オマエが言つから、上藤に電話したんやー。」

「……」

ホンマにしたんや、電話。

「やじたうア、何で言つたと黙つへ。」

『オメエ、まだんな』と呟んでんのか？　……ハツ。ガキ

「やう言つて切りよつてんで！？　オレの真剣な悩みを『ガキ』の一言で片付けよつてんで！？　……？　何笑てんねん？」「ブツ、アハハハ……！！」

必死になつて堪えてたけど、押されるとすぐこいつった。

「オイ、何やねん！？」

まさか、ホンマに電話すると思わへんかったけど、真剣な悩みやつたんや、アレ。

嬉しいけど、何か複雑や。そりや、上藤くんも困るやひ、じんなこと何回も聞かされたら。

「オイ、答へー やー。」

「何もあらへんよ。」

ムキになる平次を見てたら、ますます言いたくなつたし、それに、

昨日のお返しや。
何も言つたらへん。

「何もあらへん」となこやひー。気にならぬやさか！」

しつこい平次に、やうにアタシからのちよつとしたイジワル。

「上藤くん、ゴメンな。平次がアホなこと聞いて」

つて言つてやつた。

「こやど、ハハーー。」

朝の学校の屋上に平次の声が響いた。

授業が始まる前に教室に戻ったアタシが、また問い合わせられたのは
言つまでもない。

でも、何も言わへんかった。

ちよつとは期待……してもいいよな？

(後書き)

【これも記念日小説なのかなあ……？】

こんにちは！ ペロ口です。初めての方は初めまして。
お読みいただきありがとうございました。期末テスト真っ最中！
にも関わらずこの状況。相変わらずアホです。

純粹な（？）平次×和葉（未満？）で、和葉ちゃん一人称でした。
初めて書いたな～、和葉ちゃん一人称は。
でも、関西弁は書きやすいです。

自分のことを『アタシ』という以外は普段と同じ感じですからね。

今回の「子分の期待」は、うちの処女作「子分の行方」の続編となっています。読んでくださった方は分かると思いますが、平次は、あの後きっと悩むだろうと。そんなことを最近になつてふと思い、書いたんです。

楽しんでいただけたなら嬉しいです。平次の悩みは解消されないま
まですが（笑）

実は今日で作家（と呼べるかどうか分からぬもの）になつて2年が経ちました。早いな～。

昨年は、何でこんな風に書いてなかつたかというと、『キッド si de』に時間を取られていたからですね。まあ本来なら、今年は勉強に時間を取られてるはずなんんですけどね（苦笑）そういえば、このお話で20作品目だ……（今更）

いつも読んでくださる皆様、そしてさらに感想まで下さる皆様、本当にありがとうございます！ いつもかなり支えられます。感想をいただけることが嬉しいって心から思います。読者様の生の声で
すからね。

初めてペロコのお話を読まれた方。初めまして。こんな作者ですが、今後も読んでくださると嬉しいです。

ではでは、感想などいただけたら嬉しいです。また長くなってしまつた……。これからもよろしくお願いしますね！
クリスマス、書けたらいいな。ムリかな……。書きたい。ネタ、と
いうか、誰で書くのがいいんだろう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1675d/>

子分の期待

2010年10月12日03時10分発行